

# 第16回 真・報連相全国大会

## 真・報連相の実践について

---

2022年12月2日

株式会社CSDコンサルティング

島袋朝也

# 目次

---

1. CSDコンサルタントについて
2. 真・報連相を導入した背景
3. 本日の目的
4. 勉強会の具体的な内容
5. 勉強会の成果
6. まとめ

# 1. CSDコンサルタツツについて

---

# 1. CSDコンサルタントについて

企業名	株式会社CSDコンサルタント
所在地	沖縄県浦添市勢理客4丁目13-1 浦添市産業振興センター結の街503号室
社員数	10名 ※2022年11月現在
事業内容	●経営コンサルティング 企業の戦略策定支援、事業計画策定支援、人材育成（社内研修の実施等）、健康経営の推進等



【浦添市産業振興センター結の街】



## 2. 真・報連相を導入した背景

---

## 2. 真・報連相を導入した背景

### ●CSDコンサルタンツの事業内容

企業の戦略策定支援、事業計画策定支援、人材育成（社内研修の実施等）等の経営コンサルティングを行っています。

### ●経営コンサルティングの仕事の進め方

お客様から相談を受け、困りごとを整理して課題を抽出し解決策を提案します。経営コンサルタント個人や社内でチームを組織して対応しています。

打ち合わせやミーティングなど情報共有を中心に仕事が進むため、成果を上げるには、お客様だけでなく、社内の情報共有も円滑に行われることが大切です。

### ●真・報連相導入前の現状

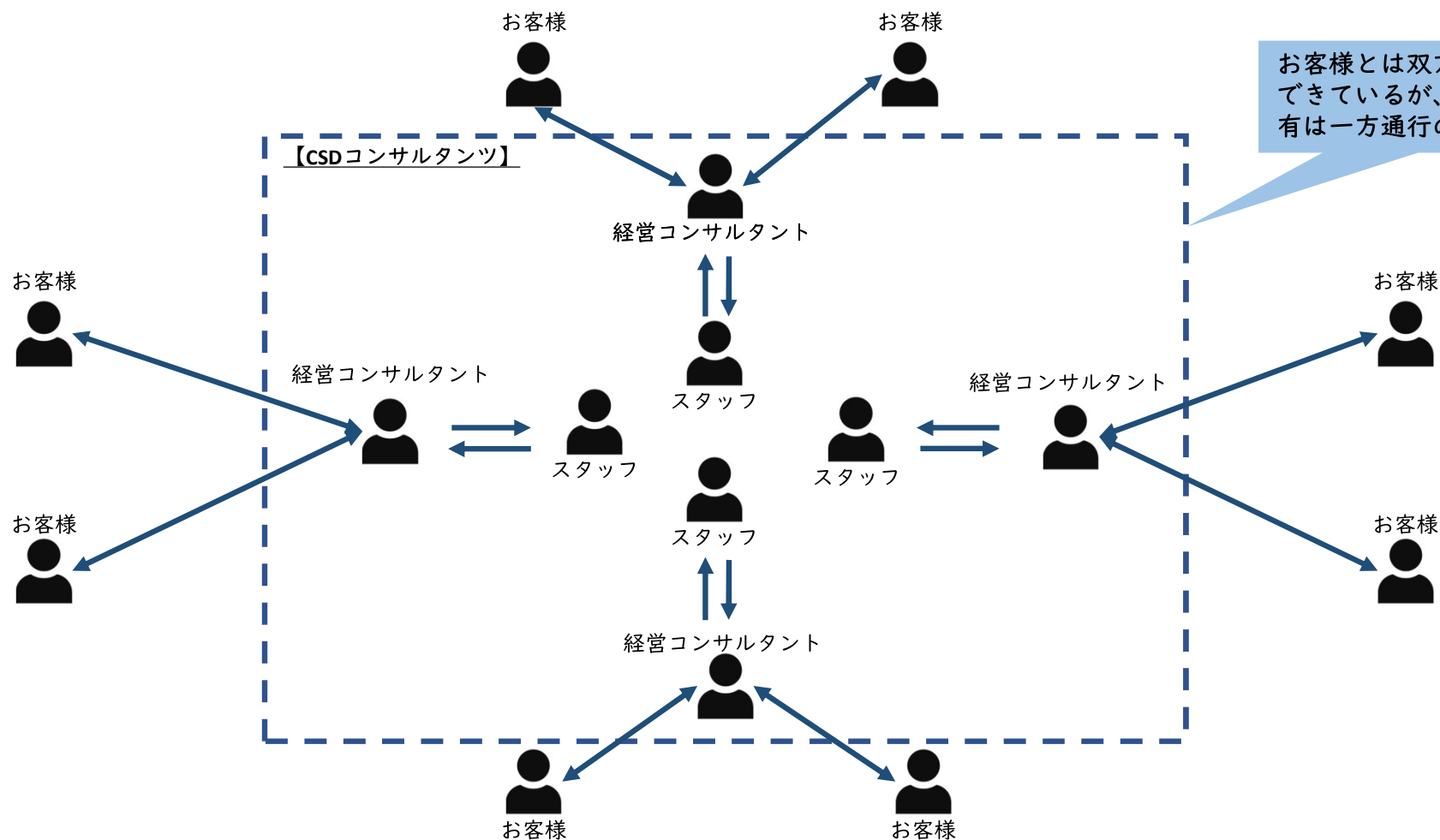
社員一人ひとりが能力を発揮して一定の成果を上げることができているものの、社内のメンバーの経験やスキルなどにばらつきがあったり、個々人が自分で進めやすいように仕事を進める傾向がありました。

また、個人の能力に頼った仕事の依頼も多く、組織的に質の高い仕事ができているとはいえない状況がありました。

## 2. 真・報連相を導入した背景

### ● 真・報連相導入前の現状

社員の経験、スキルにばらつきがある  
個々人が進めやすい方法で仕事を進める傾向がある  
個人の能力に頼った依頼が多い など



## 2. 真・報連相を導入した背景

### ●CSDコンサルタンツの課題

【CSDコンサルタンツの理想の状態】  
経営理念の実現に近づくこと

#### 経営理念

我々は、判断基準を目先の損得ではなく本質的な善悪に置くべきである。その上で、以下の理念に沿って経営活動を行う。

- 1) 社会の成長に尽くす  
よりよい社会を創るため、企業社会のあり方を支援する。
- 2) 企業の成長に尽くす  
よりよい企業に成長するための支援を行う。
- 3) 社員の成長に尽くす  
よりよい人間になるための生き方を応援する。
- 4) 上記を通して自社の成長のサイクルを構築する。



## 2. 真・報連相を導入した背景

### ●CSDコンサルタンツの課題

【CSDコンサルタンツの理想の状態】  
経営理念の実現に近づくこと

理想とのギャップ  
=課題

#### 【真・報連相導入前の現状】

- 社員の経験、スキルにばらつきがある
- 個々人が進めやすい方法で仕事を進める傾向がある
- 個人の能力に頼った依頼が多い など

#### 経営理念

我々は、判断基準を目先の損得ではなく本質的な善悪に置くべきである。その上で、以下の理念に沿って経営活動を行う。

- 1) 社会の成長に尽くす  
よりよい社会を創るため、企業社会のあり方を支援する。
- 2) 企業の成長に尽くす  
よりよい企業に成長するための支援を行う。
- 3) 社員の成長に尽くす  
よりよい人間になるための生き方を応援する。
- 4) 上記を通して自社の成長のサイクルを構築する。

## 2. 真・報連相を導入した背景

### ●CSDコンサルタンツの課題

【CSDコンサルタンツの理想の状態】  
経営理念の実現に近づくこと

【理想の状態に近づくための課題】  
全社員が経営理念実現のためのベクトルを合わせ  
パフォーマンスの向上を図る

【真・報連相導入前の現状】

- 社員の経験、スキルにばらつきがある
- 個々人が進めやすい方法で仕事を進める傾向がある
- 個人の能力に頼った依頼が多い など

#### 経営理念

我々は、判断基準を目先の損得ではなく本質的な善悪に置くべきである。その上で、以下の理念に沿って経営活動を行う。

- 1) 社会の成長に尽くす  
よりよい社会を創るため、企業社会のあり方を支援する。
- 2) 企業の成長に尽くす  
よりよい企業に成長するための支援を行う。
- 3) 社員の成長に尽くす  
よりよい人間になるための生き方を応援する。
- 4) 上記を通して自社の成長のサイクルを構築する。

## 2. 真・報連相を導入した背景

### ●CSDコンサルタンツの課題

【CSDコンサルタンツの理想の状態】  
経営理念の実現に近づくこと

【理想の状態に近づくための課題】  
全社員が経営理念実現のためのベクトルを合わせ  
パフォーマンスの向上を図る

【真・報連相導入前の現状】

- 社員の経験、スキルにばらつきがある
- 個人が進めやすい方法で仕事を進める傾向がある
- 個人の能力に頼った依頼が多い など

#### 経営理念

我々は、判断基準を目先の損得ではなく本質的な善悪に置くべきである。その上で、以下の理念に沿って経営活動を行う。

- 1) 社会の成長に尽くす  
よりよい社会を創るため、企業社会のあり方を支援する。
- 2) 企業の成長に尽くす  
よりよい企業に成長するための支援を行う。
- 3) 社員の成長に尽くす  
よりよい人間になるための生き方を応援する。
- 4) 上記を通して自社の成長のサイクルを構築する。

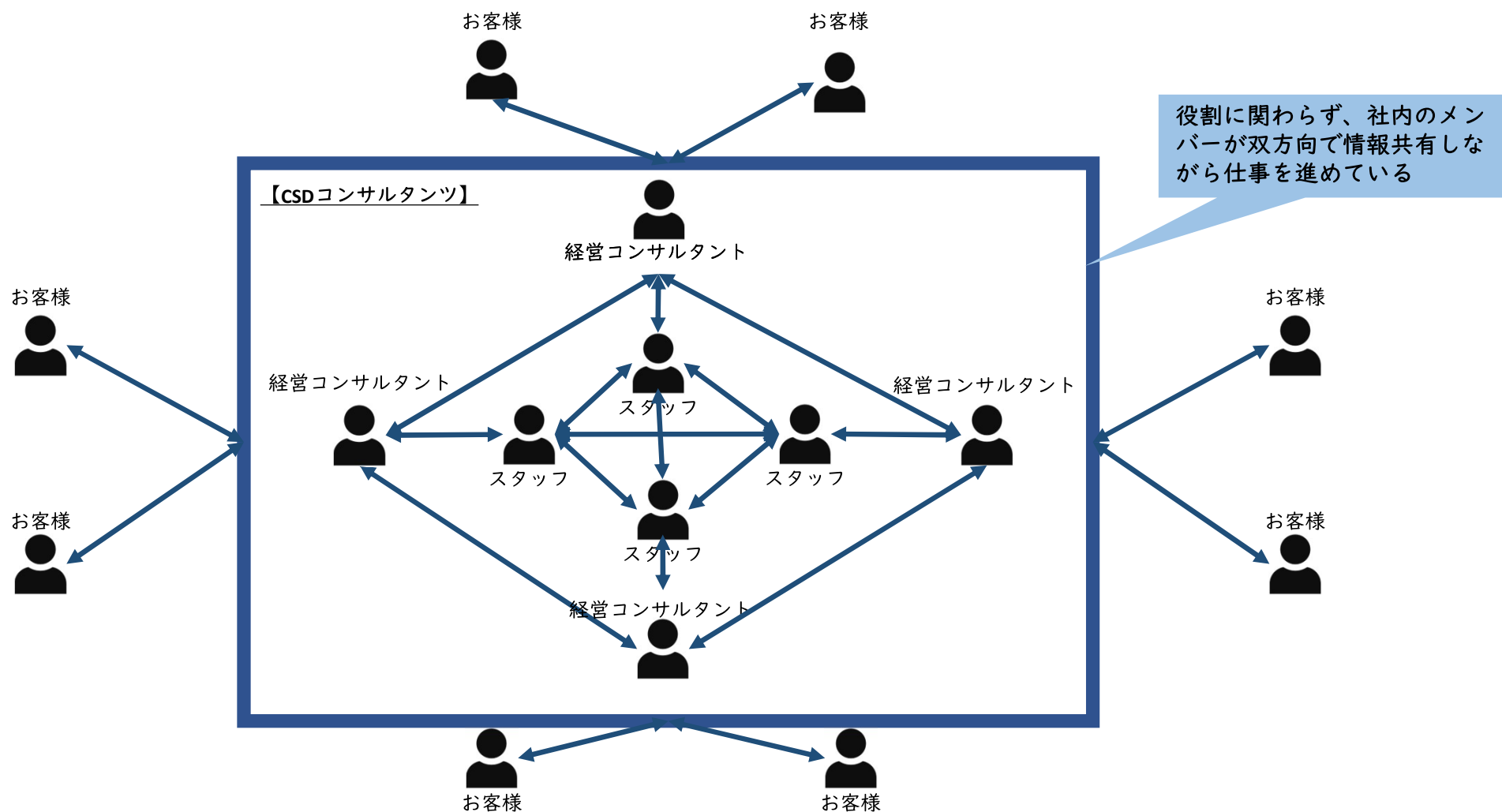
#### 【課題の解決策】

真・報連相を導入して、組織的に質の高い仕事の進め方を実践することで、理想の状態に近づくことを目指す

## 2. 真・報連相を導入した背景

### ●質の高い仕事の進め方（＝真・報連相）を学び目指す姿

全社員が経営理念実現のためのベクトルを合わせパフォーマンスの向上を図る。  
そのために、社内・お客様と真・報連相（質の高い仕事の進め方）を実践する。



# 3. 本日の目的

---

## 3. 本日の目的

### ①本日の目的

参加者の皆さん一人一人に、CSDコンサルタンツの真・報連相実践事例から、「真・報連相」に関する気づきや学びを得てもらう

### ②私自身の目的

社内の真・報連相推進担当として、今後、社内で真・報連相をより深めていくためのヒントを得る

参加者の皆さん一人一人と私自身が一緒に、  
「真・報連相」に関する気づきや学びを得る  
ことを目的に実施します。

### 3. 本日の目的

あなたが私の事例報告に参加する目的は何ですか？

## 4. 勉強会の具体的な内容

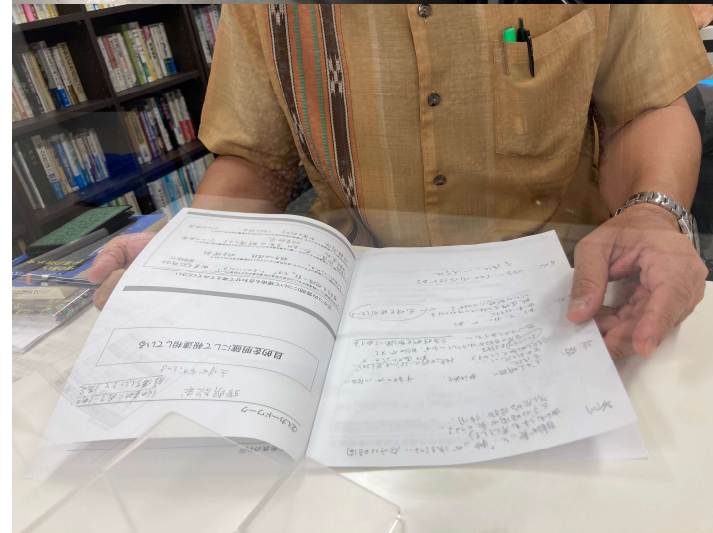
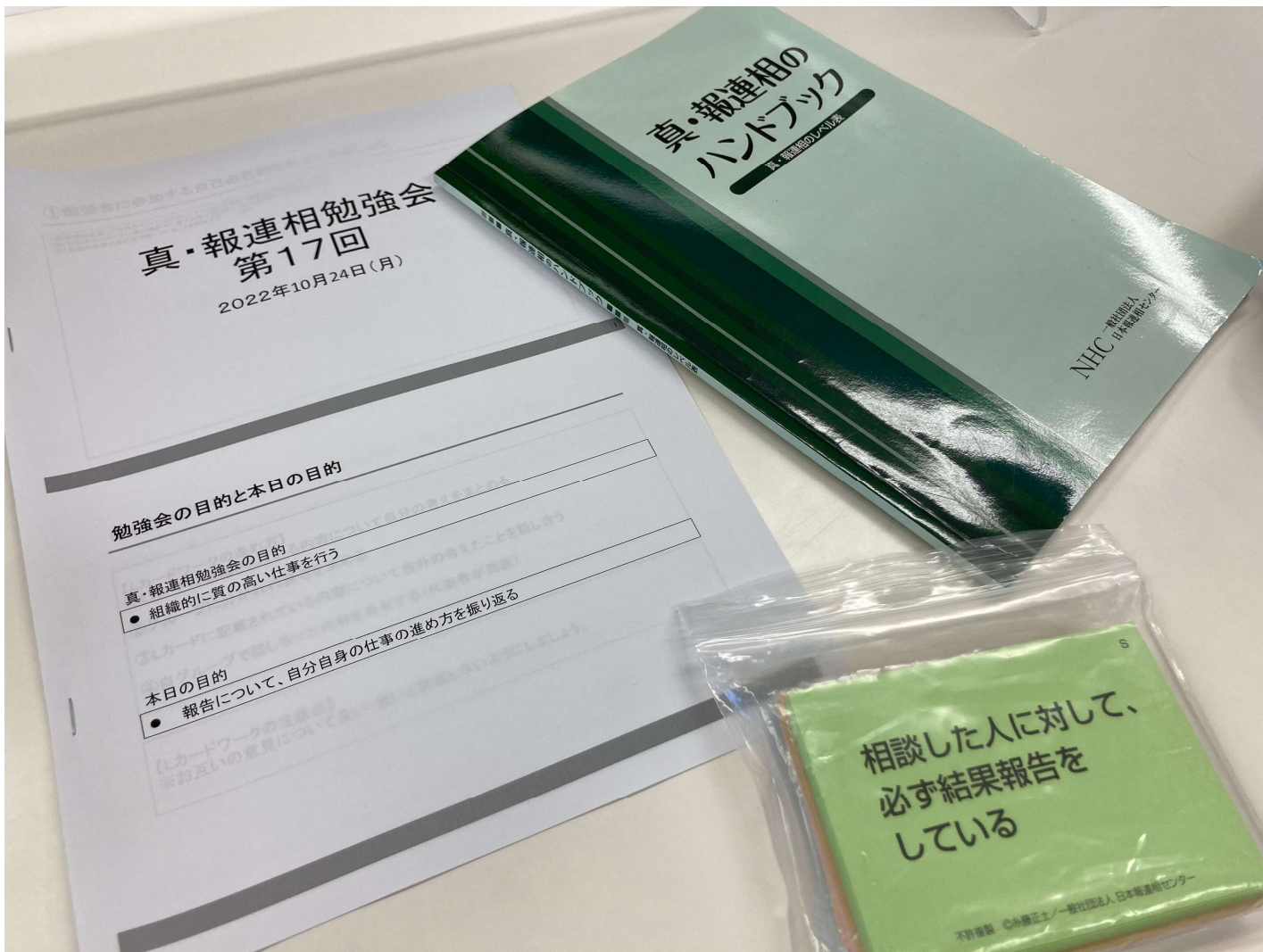
---



# 4. 勉強会の具体的な内容

## ①真・報連相の社内勉強会を実施

私が社内講師となり、毎月1回真・報連相の社内勉強会を実施してきました。2022年11月で第18回を数え、1年半以上継続しています。



## 4. 勉強会の具体的な内容

### ②実施してきた内容について

勉強会で実施してきた内容を振り返ると、2つの期間に分けることができます。

●知識習得に焦点を当てた期間

●真・報連相を実務に落とし込むことに焦点を当てた期間

## 4. 勉強会の具体的な内容

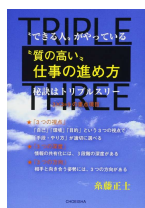
### ●知識習得に焦点を当てた期間

勉強会を始めた当初は、真・報連相の考え方を知識として習得することに焦点を当てて実施していました。

書籍やハンドブックの読み合わせを中心に勉強会を進め、真・報連相の考え方について知識を蓄えることに主眼を置いて進めてきました。

知識習得に焦点を当てた勉強会では、参加者の日常の仕事の進め方に変化が現れませんでした。

【勉強会の実施】  
(書籍やハンドブックの読み合わせ)



【勉強会終了後】  
(仕事の進め方に変化がなかった)

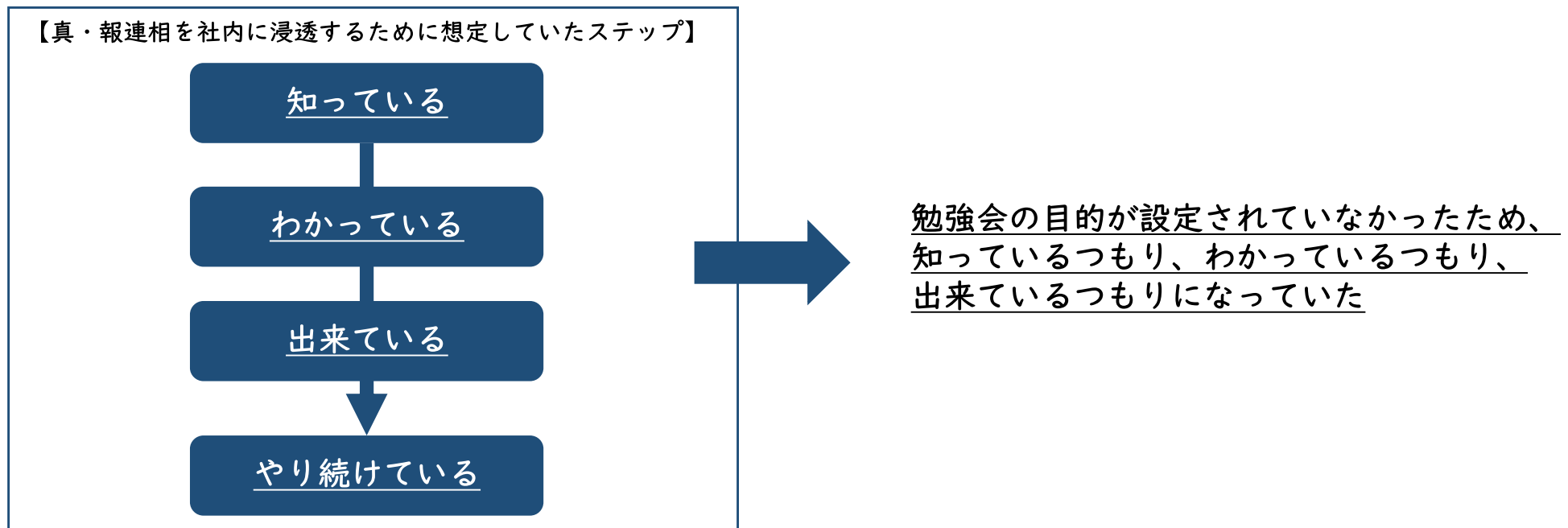


## 4. 勉強会の具体的な内容

### ●知識習得に焦点を当てた勉強会がうまくいかなかった理由

勉強会の目的を明確に示していなかったことが大きな理由だと振り返っています。  
真・報連相を社内で学ぶ目的を明確に示していなかったため、組織としてではなく個々人の解釈で真・報連相の内容を知るだけとなっていました。

参加者が真・報連相の内容について知り、わかることができれば、出来るようになると考えていましたが、目的がないため「わかっているつもり」、「できているつもり」になってしまい、仕事の進め方に変化が現れませんでした。



## 4. 勉強会の具体的な内容

### ● 真・報連相を実務に落とし込むことに焦点を当てた期間

勉強会の進め方等を見直し、勉強会の冒頭で目的（「組織的に質の高い仕事を行うため」）を参加者と確認するようにしました。

また、目的が果たされている状態は、「実務において質の高い仕事の進め方（＝真・報連相）が実践され人時生産性（※）向上や仕事の品質向上が図られた状態」と設定しました。

これまでの知識習得に焦点を当てた勉強会から、真・報連相が実務に落とし込まれることを目指して勉強会の進め方を見直し再スタートしました。

（※）人時生産性とは、

- ・社員1人が1時間当たりで生み出す成果を示します。
- ・人時生産性＝生み出した成果÷総労働時間

## 4. 勉強会の具体的な内容

### ● 真・報連相を実務に落とし込むことに焦点を当てた勉強会の内容

私自身が持つ仕事に関する悩みなどをケーススタディとして取り上げ、質の高い仕事の進め方を実現するにはどうすればよいか、参加者と意見交換しながら勉強会を進めました。

勉強会は全社員出席しており、年齢・キャリア・価値観等が異なる多様なメンバーが参加しています。

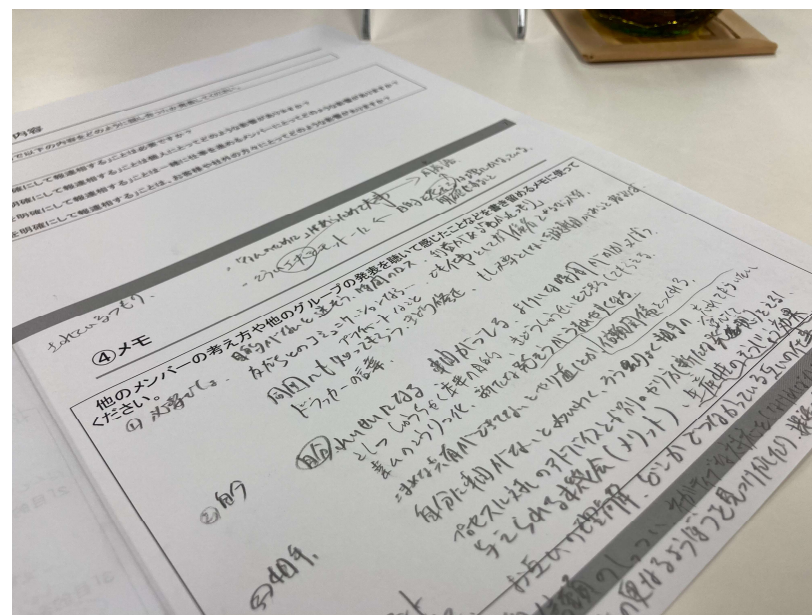
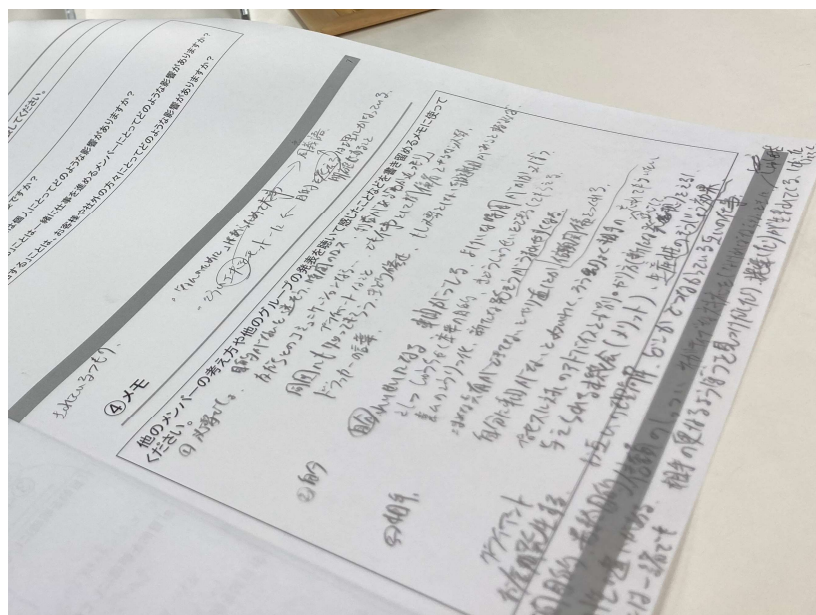
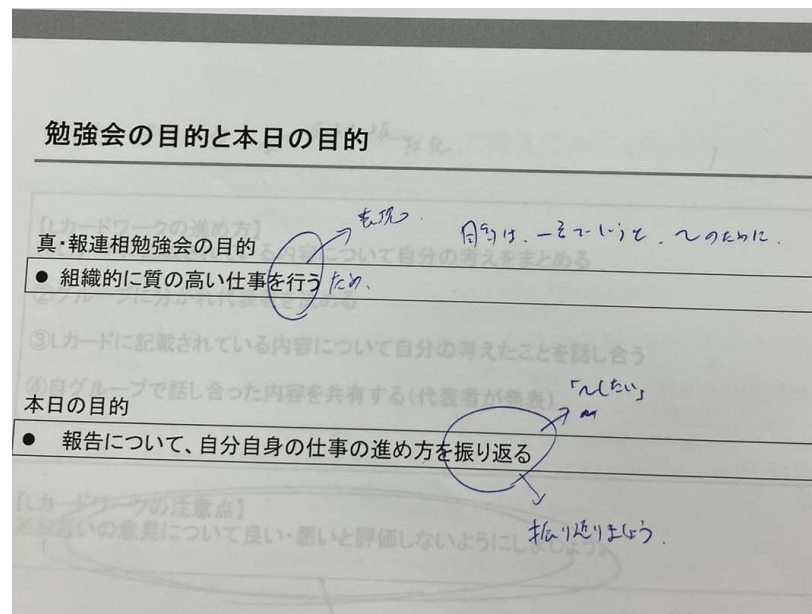
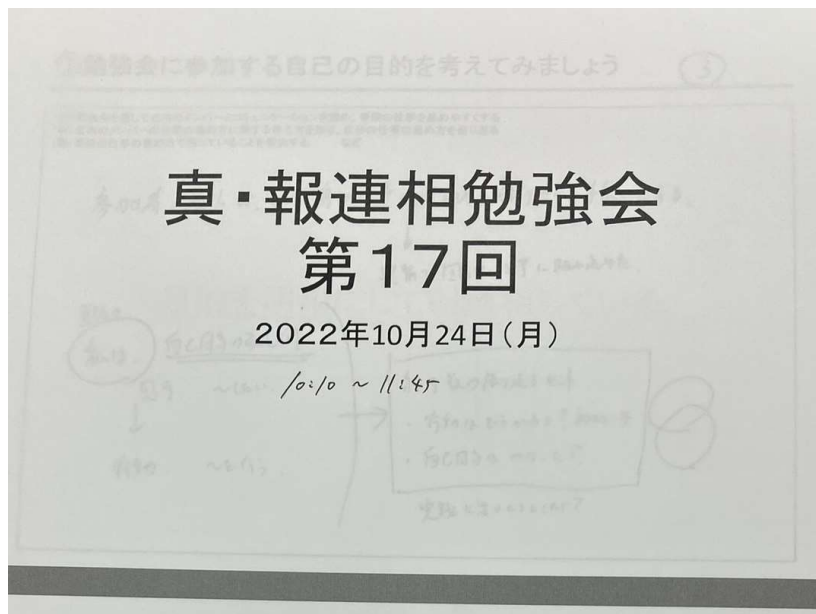
個々人の特性を尊重しながら、特定の参加者の意見が正解ということにならないよう参加者同士で対話が生まれることを意識して進めています。

【真・報連相を実務に落とし込むことに焦点を当てた勉強会の基本的な進め方】



- ① 事例の紹介（例：〇〇の業務で、情報共有がうまくいっていません）
- ② 参加者の意見を聴く（例：「打ち合わせを定例化してはどうか？」）
- ③ ②で出た意見に関する他の参加者の考えを聴く（例：私の場合、〇〇している）
- ④ ③を繰り返す（例：〇〇さんの意見について、〇〇さんはどのように考えますか）
- ⑤ まとめ

# 4. 勉強会の具体的な内容



# 5. 真・報連相勉強会の成果

---



## 5. 真・報連相勉強会の成果

### ●取り組みによって得られた成果

真・報連相勉強会を継続してきたことで得られた成果を紹介します。

●社内の情報共有（コミュニケーション）が活発になった

●お互いの仕事の進め方を共有できた

●社内で真・報連相実践の意識が高まった

## 5. 真・報連相勉強会の成果

### ●社内の情報共有（コミュニケーション）が活発になった

真・報連相の考え方（トリプルスリーやレベル表など）を共通のものさしにして、勉強会のテーマに対してどのように対応すれば良いか意見交換を行ったことで、それまで知ることがなかった社内のメンバーの考え方等を知ることができ良かったとの感想を得ています。

勉強会終了後には、その日取り上げ話し合ったテーマについて感想を言い合うなどコミュニケーションが活発になされています。

勉強会での対話を通して、経験豊富な社員の「質の高い仕事の進め方」がある程度共有され、物事の見方や考え方等が更新され仕事の効率・効果が上がってきたように感じています。



# 5. 真・報連相勉強会の成果

## ● お互いの仕事の進め方を共有できた

勉強会での意見交換を通して、日々どのような考えをもって報告・連絡・相談を行っているか共有することができ、実際の行動に変化が現れました。

例えば、お互いの行動を知らせる共有カレンダーに入力する情報について、情報を発信する人・受け取る人それぞれがどのような意図を持って活用しているのか共有したことで、入力する内容に変化が現れました。

【共有カレンダー】

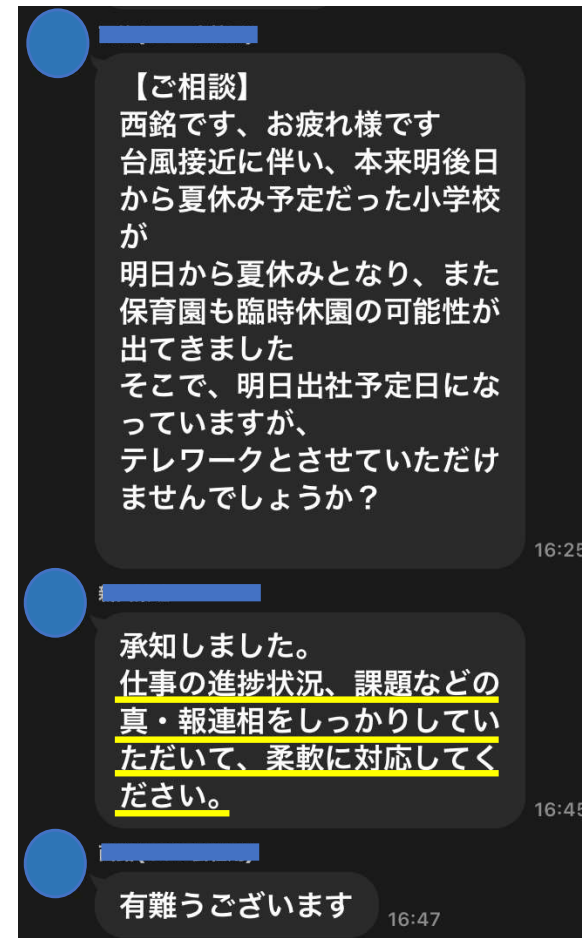
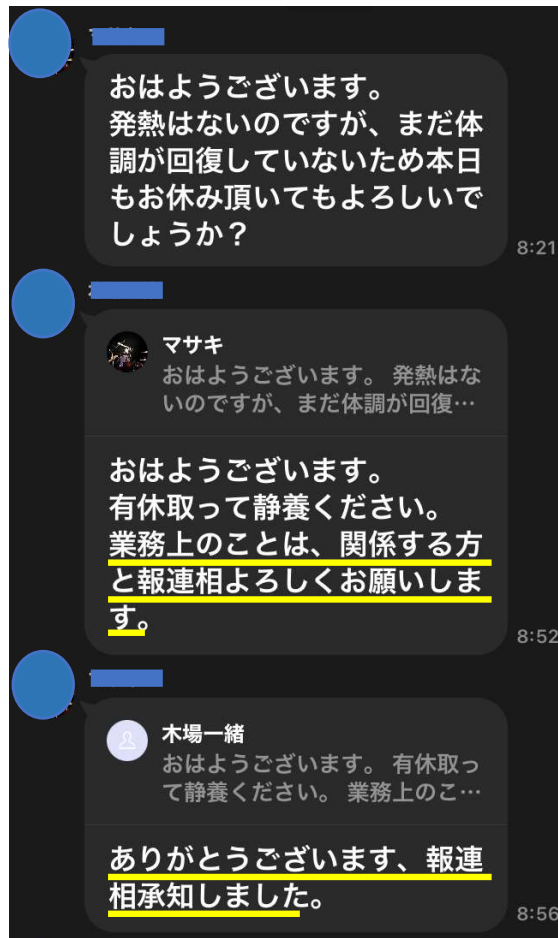


# 5. 真・報連相勉強会の成果

## ●社内で真・報連相実践の意識が高まった

情報共有ツール（LINE）で、休暇取得時等に「報連相」をするようにお互い声掛けするなど、真・報連相の意識が高まり行動の変化が現れています。

【役員と社員の情報共有の様子】



# 6. まとめ

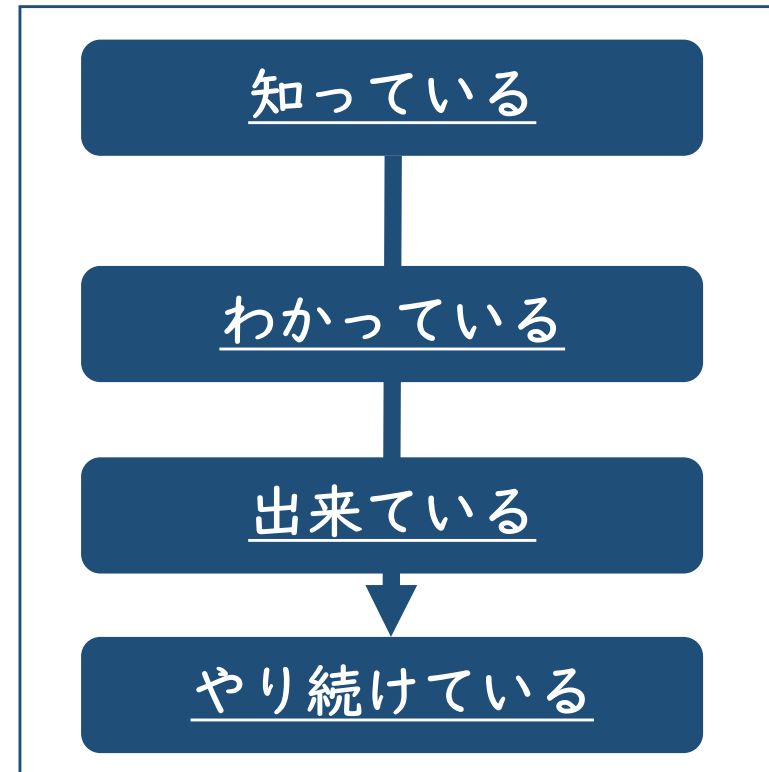
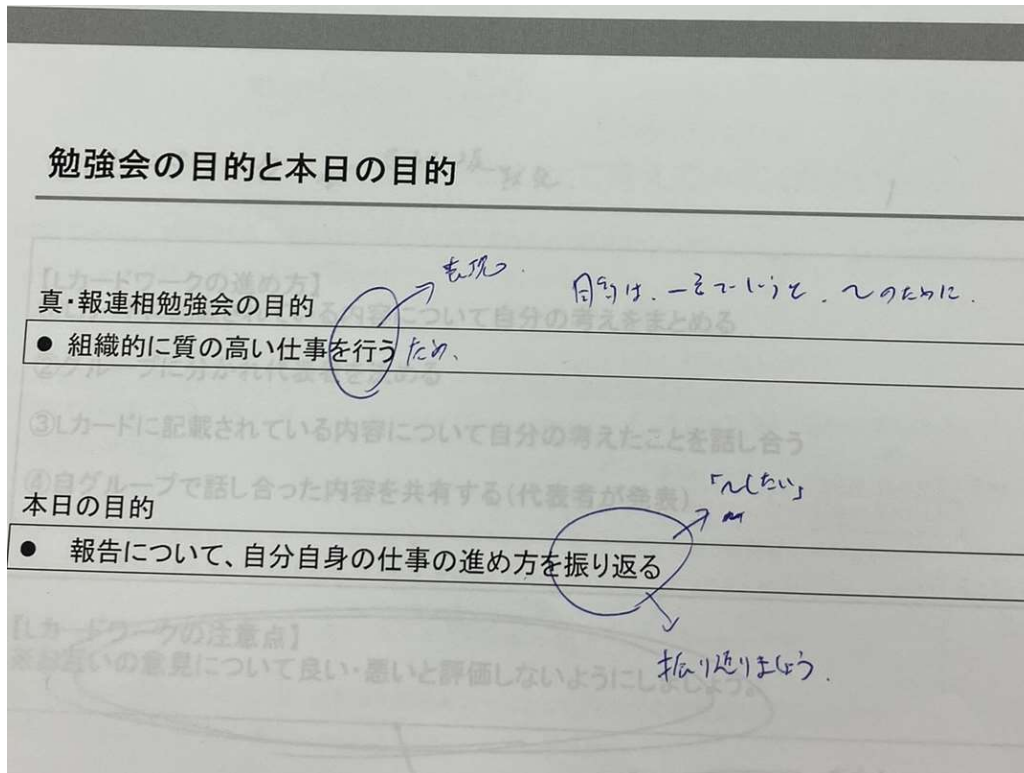
---

# 6. まとめ

## ●目的達成に向け真・報連相をさらに深めます

勉強会実施により社内の仕事の進め方に変化が現れていますが、勉強会実施の目的は「組織的に質の高い仕事を行うこと」です。

勉強会実施による社内の変化を一時的なものにせず、目的達成に向けて今後も勉強会を継続し、真・報連相が社内で「実践出来ている」状態、「実践し続けている」状態へと深めて行きます。



ご清聴ありがとうございました。

---

参加目的は達成できましたか？  
15ページで設定した参加目的を振り返ってみてください。